

院内感染対策サーベイランス公開情報 NICU 部門

2008 年報(1 月～12 月)

【NICU 部門におけるサーベイランスの目的】

NICU 部門における院内感染症（敗血症・肺炎・髄膜炎・腸炎・皮膚炎・その他）とその原因菌（MRSA・MSSA・CNS・緑膿菌・カンジダ・その他）に関して経年的に調査を行い、出生体重別・感染症別・原因菌別の感染症発生状況を評価し、各医療機関には全体集計と比較したデータを返却し、院内感染発生の原因を探る一助とする。

なお、NICU 部門に参加されている各医療機関では、ここに掲載した公開情報のほかに、自施設と全参加医療機関のデータとの比較をした還元情報を、参加医療機関専用サイトからダウンロードできます。

【解説】

全国のNICU保有の58医療機関から2008年1月～12月の各NICUにおける感染症データが送付され解析した。総入院数は10823名で感染症発症者は540名（5.0%）であった。その内訳として出生体重別の入院数は超低出生体重児（～999g）652名、1000～1499g児847名、1500g以上の児9324名であった。この調査の対象となった超低出生体重児や1500g未満児の入院数は日本全国の出生数の約2割弱に相当している。

体重別感染症発症頻度は、体重の小さい体重群順に182例（27.9%）、59例（7.0%）、299例（3.2%）であった。やはり超低出生体重児が人工換気療法や中心静脈栄養などの濃厚な治療を受ける期間が長いために感染率が高い。

原因菌別にはMRSAが従来どおり高く164例（30.4%）、次いでMSSA59例（10.9%）、CNS35例（6.5%）、緑膿菌22例（4.1%）、カンジダ18例（3.3%）、その他の菌147例（27.2%）で菌不明が101例（18.7%）であった。

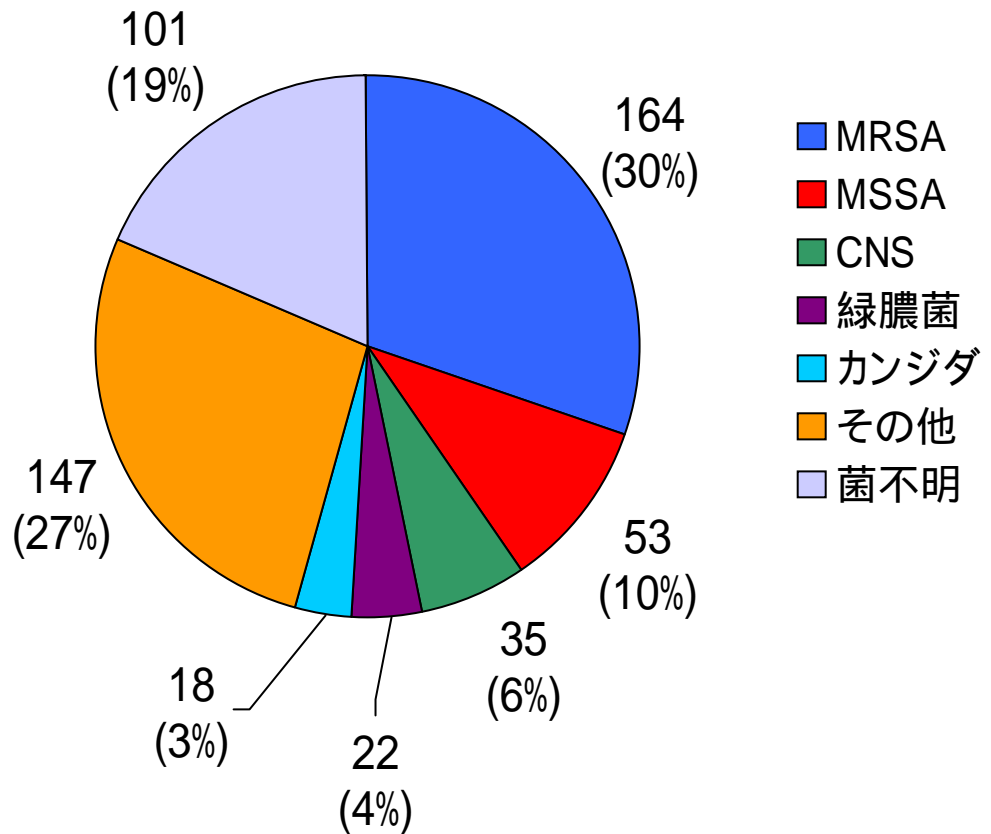
感染症別では肺炎101例（18.7%）、敗血症100例（18.5%）、皮膚炎51例（9.4%）、腸炎22例（4.1%）、髄膜炎7例（1.3%）その他が259例（48.0%）であった。

表1 体重別入院患児数・
感染症発症患児数

体重	入院患児数	感染症発症 患児数	感染症 発生率
～999g	652	182	27.9%
1,000g～1,499g	847	59	7.0%
1,500g～	9324	299	3.2%
合計	10823	540	5.0%

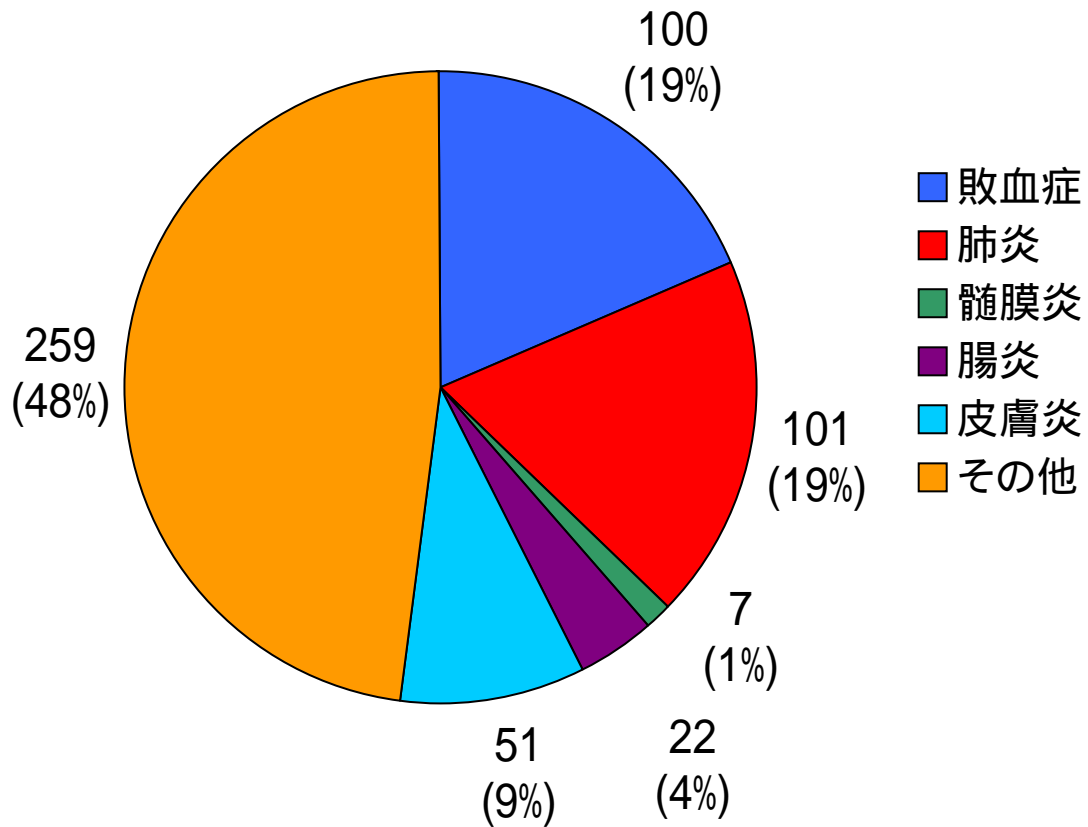
(集計対象医療機関数:58)

図1 菌種別感染症発症患児数 (N = 540)



(集計対象医療機関数:58)

図2 感染症分類別感染症発症患児数 (N = 540)



(集計対象医療機関数:58)